

校長通信

Morifun

2021 年度が始まりました。新入生を迎えて、総勢 460 名でスタートを切りました。新型コロナの勢いは衰えを知らず、第4波が押し寄せている感じで、ここ岩手でも変異株が確認されるなど、気の抜けない毎日が続いています。感染対策は一見自分のためにやっているようで、実は大切な人のためにやっているんです。一人一人の感染対策の向こうに、たくさんの人がいるということを忘れないでください。コロナは本当にしんどいですが、相手を思いやる気持ち、大切な人を思う気持ちは逆に強くなったのかなとも感じています。まずは日々の感染対策を怠らず、免疫力を高め健康で充実した生活を送りましょう。May peace prevail on earth!

校長通信の第1号です。簡単に自己紹介をします。生まれも育ちも盛岡です(山形県とは何も関係がありません)。千葉で5年、岩手で33年公立高校の教員をやり、その後、縁会って盛岡大学に務めています。現在は大学と兼務で校長職を仰せつかっています。大学では英語文化学科に所属し教職(教員免許を取得するために必要な科目)を担当しています。今年度は本校から大学に28名、短大に7名入学してくれました。何となく心強いです。盛岡大学は素晴らしい大学です、本校と同じように学生と教員の距離が近いです。皆さんの進路選択にもぜひ盛大を含めてください!

<4/9 入学式無事挙行>

4月9日(金)、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら147名の入学生を迎えました。学園歌・賛美歌は音楽部の諸君に唄ってもらい、厳粛で心温まる時間を共有できました。入学許可の呼名では、マスク姿の一人ひとりが心のこもった大きな返事をし、一礼しました。新入生それぞれの決意を感じました。生徒会執行部、野球部、陸上部、柔道部などに協力頂きました。感謝!

◆校長式辞

人間が喜べる時に喜び、祈りたい時に祈り、感謝したい時に感謝するのは自然の姿でしょう。しかし、人生の悪い時、つらく厳しい時にこそ、正しい行動がとれるように、喜び・祈り・感謝を本物にしなければならないのです。

笑顔で挨拶を交わし／小さなことにもよろこび／嘘を言わず／悪口も言わず

全てのことに感謝し／人のしあわせを祈る／一月一日の気持ちを／皆がみんな

十二月三十一日まで持ち続けていたら／美しい国になる

詩人で画家である星野富弘という人の言葉です。どうか喜び・祈り・感謝を常に胸に抱き、高校生としてのスタートを切る今日の気持ちを、卒業する日まで持ち続け、どうか充実した高校生活を送ってください。

◆理事長祝辞

ご存じの通り私たちは今コロナとの戦いの真ただ中にあります。そればかりでなく現代社会は地球規模での環境破壊、貧富の格差の拡大、さらに日本の場合はジェンダーギャップの問題を抱えています。これらの課題を解決するのは次世代を担うあなた方に負う所が大なのです。他人事ではなく我が事として立ち向かっていかなければなりません。そのためにはあらゆる困難に打ち勝つ「英知」を身につけることが大事です。「英知」とは豊かな教養と言ってもいいでしょう。本を読み、先人の言葉

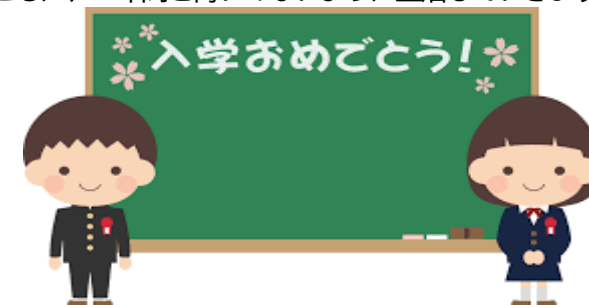
に耳を傾け深く考える習慣を身につけましょう。音楽や美術作品に心を委ね人間性を磨くことも大切です。盛附、盛大、盛短の先生方はあなた方の疑問に答え、教え導いてくれるはずです。

◆歓迎の言葉(生徒会長・山田拓巳さん)

高校は中学校の頃よりも一つ一つの行動に責任を持ち、自分で判断しなければならない場面が多くなります。しかし、これらのことは今後、自律した社会人となるために必要なことであり、高校生のうちに身につけなければならないことです。私たちが在校生も皆さんの模範となり、皆さんを導いていけるよう努力していきたいと思います。最後に、高校生活が人生で一度しかないことを理解し、その上で楽しく有意義なものになることを願って、歓迎の言葉とさせていただきます。

◆誓いの言葉(新入生代表・勝山心晴さん)

これからの高校生活で、何事にも一生懸命に挑戦していきたいです。そこで、仲間を大切に生活していきます。生活していくうえで、壁にぶつかることがあるでしょう。しかし、一人では解決できなくても、仲間と一緒に解決できることはたくさんあると思います。また、辛いとき、不安な時に仲間が心の支えになることもあると思います。つい先ほど顔を合わせたばかりの私たちですが、協力し、助け合いながら生活していきたいと思います。それと共に、三年間お互いに高め合える仲間でありたいです。盛岡大学附属高等学校での生活で新たな経験をし、新しい自分を見つけることができるでしょう。自分の行動にこれまで以上に責任を持ち、新たな仲間とともに、三年間を悔いのないように生活していきます。



<4/8 始業礼拝より>

新約聖書 ルカによる福音書 24章 1～12節

教会の暦では、4月4日はイースターとなります。クリスマスはイエス・キリストの誕生日、イースターはイエス・キリストが復活したことを示す日となります。ちょうど冬が終わって春が来る季節に行われます。だんだん日本でも浸透してきています。イースターでは卵とウサギがシンボルとして登場します。卵というのは、新しい命が殻を破って生まれ出る、そのイメージとイエス・キリストが墓から復活した、新しく誕生したイメージが重なります。教会ではカッティングしたゆで卵を礼拝者に配る風習があります。ウサギは春先にたくさん子どもを産むそうで、欧米では春にたくさん命を誕生させることで、イースターにふさわしい動物として登場します。

「復活」という言葉は、イエス・キリストが十字架に磔となって殺された後に蘇ったことを示しています。元々ギリシア語では「起き上がる、立ち上がる」というイメージの言葉だと言われています。先程読んだ聖書の部分はイエス・キリストが復活する場面ですが、ここで復活した、立ち上がったのはイエス・キリストですが、同時にもう一つの復活の物語が語られています。残された人たち、ここでは女性たちが悲しみの中からもう一度立ち上がった、残された人の復活の物語でもあります。

私たちが今生活をしていると、悲しいことや辛いことがあって、心が座り込んだように立ち上がれない、起き上がれない、そういう気持ちになることがあります。この一年、新型コロナウイルスの感染拡大で多くの人の気持ちが沈んで起き上がれない、そういう心境で日々を送っていると思います。こういった中で、「復活」という言葉は、私たちを立ち上がらせてくれる力を与える言葉となります。どんなに辛いこと、失敗や挫折があっても、もう一度立ち上がることができる、その復活の力を神は私たちに与えてくださっているのです。(花巻教会牧師 鈴木道也先生)

<令和2年度 担任紹介>

始業式の日、新年度の担任の先生方が発表になりました。下記の通りです。生徒のみなさんは、よく先生方の話を聞いて、暖かい思いやりのある、アガペーが溢れるホームルームを築きましょう。

年 組	担 任	副担任 等
1年1組	小野寺克信	村井真人 (学年長)
2組	太田 浩史	伊藤泰彦 (副学年長)
3組	松崎 克哉	見上匠吾
4組	ホップス純子	佐藤一樹 (高橋郁子)
5組	吉清水克博	
2年1組	法領田康幸	伊藤 綾 (学年長)
2組	大黒 准哉	菅原智彦 (副学年長)
3組	澤田 真一	澤山和則
4組	柴山 宏子	ジョシュア・ウィス
5組	安保奈穂子	石塚汐里子
3年1組	小松 直	阿部銀蔵 (学年長)
2組	田高 蒔生	平澤 岳 (副学年長)
3組	関口 清治	赤坂昌吉
4組	佐々木香苗	泉山 誠
5組	熊谷 洋二	前川剛大

<新任の先生方紹介>

4月から下記のフレッシュな先生や経験豊富な先生方にご着任いただきました。先生方にメッセージをいただきました。

常任講師 ホップス純子先生 (英語)

「今日の自分が昨日の自分より1ミリでも前に進んでいられるよう、毎日を大切に盛附の皆さんと過ごしていきたいと思います。是非一緒に『毎日前進』に挑戦しましょう！」

常任講師 前川剛大先生 (国語)

「担当教科は国語、部活は野球部を持たせて頂きます。

生徒の皆さんと一緒に、6年前盛附を卒業しました。皆さんと歳も一番近く、同じ盛附同士なので気軽に話しかけてください。宜しくお願いします。」

主査 岩崎正子さん (事務室)

「大学総務部から来ました。その前は短大学生課や図書館等にいました。高校は生徒も先生方も活気があり楽しそうでした。どうぞ、よろしくお願いします。」

<今月お勧めの一冊>

昨年度から朝読書が始まったのをきっかけに、随時本の紹介をしてきました。今月の一冊は『アーモンド』(祥伝社)です。ソン・ウォンピョンという韓国の作家のデビュー作です。大学の図書館で表紙の素っ気ないというか生気のない少年の表情に目が行き手に取りました。当たりでした。プロローグに次のような文章があります。「一言で言うと、この物語は、怪物である僕がもう一人の怪物に出会う話だ。でも、その結末が悲劇なのか喜劇なのかをここで語るつもりはない。(中略)最後に言い訳をさせてもらうなら、実際のはなし、どんな物語でも、本当のところそれが悲劇なのか喜劇なのかは、あなたにも僕にも、誰にも永遠にわからないことだから。」先入観なしにまずは読んでほしい作品です。作者は映画の脚本や演出の仕事もしているせいか、このストーリーも展開が素晴らしく更には映像が浮かんできました。最後に作者の言葉を一部紹介します。「ちょっとありきたりな結論かもしれない。でも私は、人間を人間にするのも、怪物にするのも愛だ」というようになった。そんな話を書いてみたかった。」読んでから気がつきましたが、この作品、2020年本屋大賞翻訳小説部門第1位の作品でした。全く知りませんでした。高校生だけではなくどの世代にもぜひ読んでほしい作品です。

